

第21回 藤木祭

生誕122年

日時 平成21年9月27日(日) 午後1時から
場所 芦屋・高座の滝前 (雨天決行)

主催 日本山岳会関西支部
兵庫県山岳連盟
大阪府山岳連盟
後援 芦屋市
近畿地区山岳連盟



第21回 藤木祭式次第

- | | | | | |
|-------------|-----------|-------|-----------------------------------|------------------|
| 1 開会のことば | 日本山岳会関西支部 | 桑田 結 | 5 藤木九三短歌朗詠 | 藤木摩耶子 |
| 2 主催者挨拶 | 兵庫県山岳連盟会長 | 中島 龍 | 「雪を掘りて明かせしひとよいねがてにききし雪崩をないかとうたがう」 | |
| 3 来賓挨拶 | 芦屋市長 | 山中 健 | 6 コーラス | アシヤユースコーラス |
| 4 お話し「安全登山」 | 関西大学教授 | 青山 千彰 | 7 合唱『雪山賛歌』 | 出席者全員 |
| | | | 8 閉会のことば | 日本山岳会関西支部長 重広 恒夫 |

開催の趣旨

藤木九三氏は、RCCの設立、岩場の開拓を始め岩登り技術の基礎づくりをされ、多くの登山家を育てられました。また、ロックガーデンの名付親とされ、山岳詩人として優れた詩や著書を残されています。勤務された朝日新聞社では、登山の指導教育、登山行事の主催や後援、海外登山隊への援助など、登山界の発展に寄与された、わが国を代表する登山家であり、指導者でした。

この大きな功績と人柄を慕い、レリーフの建設が考えられたのは、昭和36年頃です。当時日本山岳会関西支部長で合った津田周二氏を中心として、山岳連盟、RCCの方々が世話人会を結成され、約400名の方々から67万円の寄付金を得て建設されたものです。レリーフの製作は日本山岳会会員で彫刻家の佐藤久一朗氏が担当され、昭和38年5月12日に藤木先生も出席され、約200人の岳人が集い盛大に除幕式が行われました。関西の山仲間が年1回レリーフの前に集まり、旧交を暖め藤木先生をはじめ岳友を偲び、登山の発展と安全を祈る場として、今後も継続されることを祈願しています。

藤木祭記念ハイキング

集合 平成21年9月27日(日) 午前9時

場所 阪急電車 芦屋川駅前

コース 高座の滝～中央稜～風吹岩～横池～高座谷～高座の滝

担当 大阪府山岳連盟・兵庫県山岳連盟

藤木九三氏略歴

1887年(明治20年) 9月30日生まれ

1970年(昭和45年) 12月11日死去(83歳)

福知山市で薬種商を営む、藤木喜兵衛氏の6男として生まれ、京都府立三中(現福知山高校)より早大に進学、大正4年朝日新聞社に入社。大正14年滝谷の初登攀に成功。大正15年ヨーロッパアルプスや、イギリスの岩場を登る。「屋上登攀者」をはじめ多くの著書がある。

第22回藤木祭(次回)は

平成22年9月26日(日) 実施

雪山賛歌

- 雪よ岩よわれらが宿り
俺たち町には住めないからに
俺たち町には住めないからに
- シールはずしてパイプのけむり
輝く尾根に春風そよぐ
- けむい小屋でもこがねのごてん
早く行こうよ谷間の小屋へ
- テントの中でも月見はできる
雨が降ったらぬれればいいさ
- 吹雪の日にはほんとうにつらい
ピッケル握るに手がこごえるよ